

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

〔学校の現状〕

○児童について

明るく元気な児童が多い。登校班や縦割り班活動を通じて、他者を思いやる心も育ってきているが、高学年になるにつれて着帽や名札を着けるという学校のきまりが守れない児童も少数いる。学力の個人差が大きく、基礎的・基本的な学児力の確かな定着と、思考力や読み取る力、学習意欲の向上が課題である。

○教師について

熱心に指導に当たる教員が多いが、本校初任者もしくは教師経験10年未満の教員が多く、指導力の更なる向上が今後の大きな課題である。

○保護者・地域について

登下校の見守り、学校の教育活動への協力など大変熱心に活動してくれる。一部の保護者には、家庭学習の軽視など課題を抱える部分もある。

〔前年度の成果と課題〕

○学力向上

区学力向上のための調査における経年比較では、毎年、通過率が向上している。しかしながら今年度4月の調査結果では、当初の目標値である2科74.5%、国語71.3%、算数77.8%（26年度区平均値）を上回ることができなかった。（通過率が2科72.0%、国語67.0%、算数77.0%であった。）12月の再テストでは、通過率が2科76.1%、国語75.7%、算数76.4%であり、2科計と国語は目標値を上回ることができた。算数はわずかに及ばなかった。

基礎的・基本的学習内容の定着が不十分な児童に対する指導が課題である。さらに個の実態に応じた指導の展開を図る必要がある。

○豊かな心の育成

学校評価アンケートでは、「道徳を重視し、思いやりの心を育てているか。」というアンケートに対し、87%の保護者が肯定的（A・B）な評価をしている。児童も「友達の嫌がることをしないように心がけていますか。」というアンケートに対して、90%が心がけていると答えている。A・B評価の数値目標である86%を越えることができた。

いじめの可能性があり、保護者対応がこじれた事案が1件あった。個々の教員の指導力を高めると同時に、学校の対応力も高めていく必要がある。心ない言動を取る児童がいるので、さらに豊かな心の育成のための指導を充実させていく。

○体力の向上

東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査において体力合計点で、3年男子、3年女子、5年女子は都平均・全国平均を下回ったが、1年男子、6年男子、4年女子、6年女子では都平均・全国平均を上回った。その他の学年でも都平均を上回っている。

積極的に運動に取り組む子の育成を図る。そのために、児童の興味・関心を喚起し活動意欲を高めるような場の工夫を引き続き行っていく。特に、男女ともに都・全国平均を下回る3年生のてこ入れを図る。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 基礎的・基本的な学力の定着、向上**

- 西二タイムの充実
- 放課後補充学習、リカバリータイムの設定
- 家庭学習の充実
- 小中連携（夏休み補充学習）

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

- 心の教育の充実
- 学校生活におけるきまりの定着
- 学級活動の充実

重点的な取組事項－3 体力の向上

- 日常的な体育的活動の充実、工夫・改善
- 日常的な運動遊びの奨励
- 体育的活動の充実、工夫・改善

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 基礎的・基本的な学力の定着、向上

〔成果〕

○今年度４月の区学力向上のための調査結果では、当初の目標値である２科７７．６％、国語７５．７％、算数７９．５％（２７年度区平均値）を上回ることができなかった。（通過率が２科７４．１％…前年比＋２．１％、国語７１．８％…前年度比＋４．８％、算数７６．４％…前年度比－０．６％であった。）１２月の再テストでは、通過率が２科８５．９％、国語８６．６％、算数８５．１％であり、全てで目標値を上回ることができた。

〔課題〕

○学力低・中位層の児童の学力向上
○基礎的・基本的な学力の確かな定着と思考力、学習意欲の向上

〔解決の方向性〕

- 個の実態に応じた学習指導
 - ・個人カルテ（改訂版）
 - ・そだち指導
 - ・放課後補習教室（足立区版次へのステップの活用）
 - ・家庭学習の奨励・定着（リカバリータイム）
 - ・サマースクール（西新井中学校の協力）
 - ・パワーアップタイムの実施（読書・計算・漢字）
 - ・西二タイム（東京ベーシックの活用）
 - ・検証サイクルの改善
- 指導力の向上、指導方法の改善
 - ・OJT…国語・算数の授業参観、指導
 - ・教科指導専門員による指導（活用方法の工夫）
- 児童の実態の早期把握と対応
 - ・検証サイクルの改善→個に応じた指導の改善、そだち指導

重点的な取組事項－２ 豊かな心の育成

〔成果〕

○豊かな心の育成に関わる学校評価アンケートの結果は、①保護者への連絡は適切か…８８％②人権を尊重する指導は適切か…９０％③児童の努力を認め励ましているか…８８％④道徳を重視し思いやりの心を育てているか…８５％⑤役割や責任を果たそうとする児童を育てているか…８７％⑥児童の悩みやトラブルを見逃さずに指導しているか…７８％（不明１２％）。いずれの項目も不明が５～６％あるため、目標であるＡＢ評価８８％以上は達成できたものとする。

〔課題〕

○児童のトラブル対応については、肯定的な評価があまり高くないので、より適切な対応を図っていくことが課題である。
○心ない言動を取る児童がいるので、さらに豊かな心の育成のための指導を充実させていく。

〔解決の方向性〕

- 心の教育の充実
 - ・いじめ防止強化月間（６月、１１月、２月）における道徳を中心とした人権尊重に関わる授業の実施
 - ・奇数学年での保育園児との交流
- 学級活動の充実
 - ・学級活動を中心とした体験を通しての社会性の育成。（PDCAのサイクルで１２時間以上）
 - ・OJTの授業観察に学級活動を取り上げ、教員の指導力を高める。
- 生活指導の工夫・改善
 - ・週目標の定量化
 - ・日常の指導体制の改善

重点的な取組事項－３ 体力の向上

〔成果〕

○今年度の取り組みに対する児童の「楽しい」とする評価の、平成２７年度との比較は（２７年度→２８年度）次のとおりである。朝マラソン・持久走記録会４４％→５３％、西二ギネス６５％→７４％、先生方との休み時間の運動遊び８３％→８９％、縄跳び（長縄・短縄）の取り組み６２％→８１％であった。いずれの取り組みにおいても、前年度よりも児童の評価に向上が見られる。

〔課題〕

○朝マラソンや持久走記録会の取り組みのような克服的な要素が強い運動については、依然として評価が低い傾向にあり目標とする数値には達しなかった。

〔解決の方向性〕

- 多様な運動経験の確保
 - ・西二ギネス：実施方法を工夫し、運動の楽しさを味わわせると同時に意欲を高める。
- 日常的な運動遊びの更なる奨励
 - ・20分休み（中休み）は、全員校庭で遊ばせる。教員も一緒になって遊びに取り組むことで、遊びに対する関心・意欲を高めずんで体を動かす子を育てる。
- 体育的活動の充実
 - ・季節に応じた体育的活動に、主体的に取り組むことができるように工夫する。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- 学力向上については、新たに個人カルテを改善、検証サイクルの見直しなどを通して、さらに児童一人ひとりの実態に応じた指導が行えるようにします。
- いじめに関しては、早期発見早期解決に引き続き努めます。学校の組織的対応力を向上させるとともに、今まで以上に保護者との連携をこまめに行い、共同して対応ができるようにしていきます。学校外のことでも認知された場合には、是非情報提供をお願いしたいです。
- 基本的な生活習慣の確立（帽子をかぶっての登校やハンカチの携行等）には、家庭と学校の協力を欠かすことができません。引き続き協力をお願いします。
- 家庭学習の定着が、子供の将来にとって大変重要です。学校で出す宿題だけではなく自学（家庭での自主的な学習）が重要です。少しでも児童の家庭学習の割合の中に、自学の比率が高くなっていくように協力して進めていきたいです。宿題の丸付けなどの協力もよろしくをお願いします。

2. 平成28年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎：十分に達成 ○：おおむね達成 △：達成せず ●：課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上	区学力調査 通過率2科77.6%、国語75.7%、算数79.5% (平成27年度区平均値)	4月の調査結果では、当初の目標値である2科77.6%、国語75.7%、算数79.5%(27年度区平均値)を上回ることができなかった。	12月の再テストでは、通過率が2科85.9%、国語86.6%、算数85.1%であり、全てで目標値を上回ることができた。 早期の達成が課題である。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
西二タイム（個別指導）の充実	個に応じた丁寧な指導を、年間30回実施する。	①2月に実施する区学力調査から作成する個人カルテに基づく指導。 ②系統性が明確な算数を20時間、国語を10時間で実施。 ③課題の多い学級に専科教員を配置し、複数の教員での指導。	①予定どおり実施した。個人カルテについては、年度途中で改善し、より個別指導に生かせるようにした。 ②③予定どおり実施し、一定の成果(12月再テストの結果)を上げることができた。	計画を立てて実践することで、満足してしまいう傾向が見られる。検証のサイクルを改善するなどして、学力向上の常なる意識化を図る必要がある。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
毎日の放課後の補習学習	区小研等の日を除き、週5日実施する。	①区学力調査の目標値に達しない児童を対象として実施する。 ②課題の多い学級に専科教員を配置し複数の教員での指導 ③低学年を中心とした保護者、地域のサポート	①②については、全学級で実施した。③については、募集をしたものの協力者が現れず、実施出来なかった。区小研、クラブ活動、委員会活動など、児童を残すことが難しい日以外は毎日行った。週5日行うことが難しいときが多かった。	繰り返しの指導を行っているが、なかなか学習内容が定着しない。学習内容の定着が課題である。	○
家庭学習	児童の85%が目標時間を達成する	低学年30分、中学年40分、高学年50分の学習時間を設定し取り組ませる。	学年、学級によってばらつきはあるものの、全学年を通して85%を達成することができた。	宿題をやっても来ない子はほぼ決まっており、家庭の意識の改善が課題である。	○
小中連携	①年間8回実施する。 ②サマースクールへの相互協力	①全体会2回。分科会、研究授業を各3回実施する。 ②夏季休業中に10日間実施する。	全て計画どおりに実施した。研究授業の実施に際してはTTなどの指導方法の工夫もあった。	サマースクールの効果の検証が不十分であった。個人カルテを活用を考える。	○

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりのある優しい子の育成	学校評価アンケートで教員、児童、保護者からのAB評価を88%以上にする。	各評価項目で85～90%の評価であったので、おおむね達成出来たと考える。	児童のトラブル対応については、肯定的な評価があまり高くないので、来年度の課題である。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育の充実	①いじめ(生命尊重)に関する授業を年3回実施する。 ②奇数学年での保育園との交流の充実	①いじめ防止強化月間(6月、11月、2月)に授業を実施する。 ②1年:学習体験、3年:保育園訪問、5年:給食体験・交流会	①授業は計画どおり行った。いじめに関わりこじれた事案が1件あった。 ②保育園との交流も計画どおり行った。	①いじめの未然防止には、常に今事を意識した対応が必要である。 ②保育園との交流をさらに充実させたい。	◎
学校生活におけるきまりの定着	きまりに関わる取り組みを、児童の80%以上が実践する。	週目標の定量化を図り、主体的にきまりを守ろうとする児童を育成する。	達成状況を「見える化」したことで児童の励みとなり、取り組みの実践度が全学級で80%を越えた。	来年度も継続して取り組みさらに成果を上げていく。	◎
学級活動の充実	児童の自発的・自治的活動を12時間以上確保する。	①話し合い活動に基づき、PDC(A)のサイクルにのっとった活動を行う。 ②OJTに学級活動を取り上げ、教員の指導力	①ほとんどの学級で、予定以上の活動ができた。 ②教員の指導力が高まり、学級活動の質が向上した。	教科書のない学級活動は、教員の指導力に負うところが大きい、さらに指導力を高め	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
		を高める。		る必要がある。	

重点的な取組事項－３ 体力の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
運動することが好きな子を増やす。	運動遊びが楽しいとする子を、85%にする。	全ての取組み項目で85%以上にすることはできなかった(達成出来たのは教員との遊び…89%)が、全ての項目で昨年よりも数値が向上した。	朝マラソンや持久走記録会の取組みのような克服的な要素が強い運動については、依然として評価が低い傾向にある。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
日常的な体育的活動の充実、工夫・改善	1年間継続して体育的活動に取り組む。	朝マラソン…火曜・木曜の8時15分から5分間 西二ギネス…年間8回取り組む。	雨天を除いて予定どおり取り組んだ。(西二ギネスは日時を変更)	めあてのもたせ方をさらに工夫し、方法を改善して取り組む。	●
日常的な運動遊びの奨励	20分休み、昼休みにおける外遊びの奨励	学級担任が外遊びを働きかけると同時に、週番が休み時間に校内を見回り、外遊びを働きかける。	多くの児童が、鬼遊びを中心とした外遊びを楽しんでいる。	いくつかの改善点はあるが、取り組みを続ける。	◎
体育的活動の充実、工夫・改善	具体の活動での児童の肯定的な評価を70%にする。	①長縄跳び・短縄跳びの取り組みを、11月・1月に1ヶ月取り組む。 ②持久走記録会を中心としてマラソン旬間に取り組む。	長縄跳びの記録をとり、競争的に扱うなどした結果、児童の肯定的な評価は81%に向上した。	持久走記録会とマラソン旬間については、評価が低いのでの取り組みを工夫する。	●

3. 学校活動全般について

<p>○教員としての実勤務経験年数が10年未満の者がほとんど(11年目、12年目が各1名)という職員構成であるが、必要な指導を行ってきた結果、教員に組織で動くという意識が育ってきた。校務運営に関しても、自分が担うという意識が生まれてきており、学校全体が円滑に動き始めている。</p> <p>○学力向上の新たな手立てとして検証のサイクルを改善し、個人カルテ有効活用をさらに進めていく。</p> <p>○OJTの指導などを通して、学級活動の指導力を高め児童の社会性を育てていく。</p> <p>○生活指導における週目標の定量化に継続して取り組み、児童の規範意識をさらに高めていく。</p> <p>○体力向上のための取り組みを工夫し、有効性を高めていく。</p>
--